

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	公共 A	
科目基礎情報							
科目番号	0170			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	検定教科書『要説世界史 改訂版』（山川出版社）						
担当教員	牧野 雅司						
到達目標							
1 現代社会に生起する現象について、その発生や経緯を理解し、その概要を説明できる。 2 自らを取りまく社会や環境に目を向け、そこに内在する諸問題について、その概要を説明できる。 3 近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。 4 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 5 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。 6 科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。 7 それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 8 それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	1. について説明できる。		1. について概ね説明できる。		1. について説明できない。		
評価項目2	2. について説明できる。		2. について概ね説明できる。		2. について説明できない。		
評価項目3	3. について説明できる。		3. について概ね説明できる。		3. について説明できない。		
評価項目4	4. について考察できる。		4. について概ね考察できる。		4. について考察できない。		
評価項目5	5. について説明できる。		5. について概ね説明できる。		5. について説明できない。		
評価項目6	6. について説明できる。		6. について概ね説明できる。		6. について説明できない。		
評価項目7	7. について認識している。		7. について概ね認識している。		7. について認識できていない。		
評価項目8	8. について説明できる。		8. について概ね説明できる。		8. について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F)							
教育方法等							
概要	現代社会に生起する様々な問題について、基礎的な知識を獲得する。また、その生起した要因を過去にさかのぼり考察することで、それぞれの事象についての理解を深める。						
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・授業は講義形式で行う。 ・スライドを用いて授業を行い、適宜教科書を参照する。 【学習方法】 ・板書を写すだけでなく、授業の内容をよく聞き、適宜メモを取ること。						
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 成績評価は、提出物（40％）、期末試験の結果（60％）により評価する。試験時間は50分とする。到達目標の習得度を評価基準とする。 【備考】 毎時間必ずノートと教科書を持参すること。 【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-309) 内線電話 8903 e-mail: m.makinoアットマークmaizuru-ct.ac.jp （アットマークは@に変えること。）						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明, 公共Aを学ぶにあたって				
		2週	国際社会と日本 日本とは何か（1）		1, 2, 7		
		3週	国際社会と日本 日本とは何か（2）		1, 2, 7		
		4週	国際社会と日本 東アジアのなかの日本（1）		1, 2, 7, 8		
		5週	国際社会と日本 東アジアのなかの日本（2）		1, 2, 7, 8		
		6週	国際社会と日本 東アジアのなかの日本（3）		1, 2, 7, 8		
		7週	国際社会と日本 東アジアのなかの日本（4）		1, 2, 7, 8		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	前期中間試験問題の解答と解説				
		10週	国際社会と日本 一体化する世界（1）		1, 2, 3, 4, 7, 8		
		11週	国際社会と日本 一体化する世界（2）		1, 2, 3, 4, 7, 8		
		12週	国際社会と日本 一体化する世界（3）		1, 2, 3, 4, 7, 8		
		13週	国際社会と日本 国際経済の動向（1）		1, 2, 5, 6, 8		
		14週	国際社会と日本 国際経済の動向（2）		1, 2, 5, 6, 8		
		15週	国際社会と日本 国際経済の動向（3）		1, 2, 5, 6, 8		

		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	前10,前11,前12	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	前10,前11,前12	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	前13,前14,前15	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	前13,前14,前15	
		グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0